

阪神・淡路大震災 30年

「令和6年能登半島地震」から1年すぎた1月13日、日向灘で昨年8月8日に発生したほぼ同じ震源でマグニチュード6.6の地震が発生した。新年早々の大きな地震は2年続きで、東日本大震災以降は地震が発生すると毎回「津波」が心配されているが、今回は大きな被害にはならなかったようだ。

阪神・淡路大震災から早いもので30年がすぎ、今年も1月17日には「阪神・淡路大震災1.17のつどい」が早朝から灯りを灯して行われた。筆者も震度7の東灘区住吉で二度と体験したくない大きな縦揺れで目を覚ましたことを毎年5時46分に黙祷しながら思い出す。

神戸は地震がないと思い込んでいたが、最初のドーンという縦揺れがあり「何が起こったのか？」と思うやいなや、マンションごとシェイクされているような大きな横揺れが始まり、部屋の中は電気製品やタンスが倒れ、移動し、倒れたタンスで子供たちが部屋に閉じこめられ、隣室のベランダを伝って助け出したことを忘れることはできない。

当時は「津波」などを心配することは全くなかった、というより「地震関連の情報」が半日近く被災者に全く届いていなかったというのが正確である。まだ夜も明けぬ時間帯に不意打ちをくらい「どうなったのか」「どこに行けばいいのか」わからない。倒れた家屋から人を助け出そうとするも道具も何もない状況であった。近くの消防署に行くと救急車も消防車も出動し、「治療してください。」という張り紙と共に「薬箱」がポツンと置いてあり、かなりの重症か重体の方でない限り自身で治療するしかないという修羅場となっていた。

倒れた家屋やマンションなど戦場跡のような悲惨な街並みが数カ月はそのまま放置され、「神戸はどうなるのか」と思ったが、30年経つとすっかり立ち直った街並みとなった。しかし、1年経った能登はその後の豪雨被害が更に追い打ちをかけ、被害にあった家屋や旅館がまだ多く放置され、復興には遠い道のりを感じる。

「南海トラフ地震」が発生した場合、広範囲に被害が及ぶことが言及されている。「阪神・淡路大震災」の翌日には近隣の府県より消防車や救急車が救助に派遣されていたが、広範囲に被害発生が予想される「南海トラフ地震」が発生した場合は、それさえも期待できないと思う。「自身」や「マンション管理組合等」「町会組織等」で対応するしかない。日頃の避難訓練や防災訓練はいざという時の為に重要であり、忘れがちな「防災・減災」意識を再認識する為にも効果的だと思う。災害にあうことはないと思いたいが、日本は地震、火山噴火、台風など自然災害がいつ起こっても不思議ではない島国である。

石破総理は来年度予算案で既存の内閣府防災担当の予算と人員を拡充し、令和8年度には専任大臣を置く内閣府の外局「防災庁」を設置、将来は「防災省」への格上げを考えているとの報道がある。早急に専門的な組織を作り、今回のような埼玉県八潮市の道路陥没においても早急に救出・復旧ができる専門的な組織が必要だと思う。県が要請しないと国も動けないようだが、「阪神・淡路大震災」の際も兵庫県庁から国への連絡が遅れたために自衛隊が動けなかったと聞いている。大きな災害だと誰しもが認識できるような場合は「防災省」がすぐに救援発動できる「障壁のない」組織を望みたい。

2025年も始まったばかりではあるが、イギリスでは「冬の嵐」による大洪水や「強風」が被害を拡げているロサンゼルスの大規模「山火事」など世界各地でも「天候異変」による大きな被害が発生している。今年も「天候異変」「自然災害」は避けて通れないかもしれない。一人一人が「防災・減災」意識を常に忘れず過ごすことが大切だ。



～日本唯一の気象神社in高円寺～

今回は、昨今異常気象が多い世の中ですので、日本で唯一の気象神社を紹介したいと思います。



気象神社の起源は鉄碑によると、1944年4月、大日本帝国陸軍の陸軍気象部の構内に造営されました。軍にとって気象条件は戦略、作戦を講じるのに大事な要素であった為、科学的根拠に基づいて予報がされていたが、予報的中を祈願するなど、気象観測員の心のよりどころとされていたそうです。

気象神社は高円寺氷川神社の境内に鎮座しており、気象神社のご祭神は八意思兼命（やごころおもいかねのみこと）です。気象神社のホームページによると、「八意思兼命はその名の通り『晴』『曇』『雨』『雪』『雷』『風』『霜』『霧』という 八つの気象条件を司ることができるとされています。」とのこと。また、毎年6月1日には気象祭があり、この日は気象庁が制定している記念日です。気象庁の創立記念日でもあります。1875年6月1日に東京の赤坂葵町に日本初の気象台である東京気象台が設置され、東京で気象と地震の観測が開始されたことを記念し、中央気象台が1942年に制定をされました。

筆者は肥料原料を船で輸入をする際の配船業務を行っており、肥料原料は荷役の時に雨禁の為、度々高円寺氷川神社境内に鎮座している気象神社へ参拝をし、晴天を祈りに行っております。そのおかげか配船業務を担当してから現在まで雨によって荷役が止まることは少ないです。このことからご利益があるのではないのでしょうか。

気象神社の面白いところとしては、映画「天気の子」の聖地となっているところです。天気の子では都民が晴れを願うシーンで登場し、一瞬ではありますが気象神社の特徴的な下駄の形をした絵馬も登場しております。実際に下駄絵馬を購入し祈禱することもできます。また、下駄絵馬のほかにもテルテル坊主のおみくじがあり絵馬のわきに結ばれておりました。絵馬・おみくじには願い事が書かれており、結婚式の晴天祈願や人生の晴天祈願など様々な晴天祈願をされている方がいらっしゃいました。

農業業界にとって天候は最も密接に関係しております。異常気象が多い世の中ですので読者の皆様も一度訪れてみてはいかがでしょうか。(原料部)



一年ぶりに京都へ行ってきました。神社へのお礼参りと美味しい食事を堪能出来て元気モリモリです。

編集事務局：田口、山内

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp

URL <http://www.mcagri.jp>